

第3回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会

(概要)

先般開催した、令和5年度第3回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

1. 日時

令和5年 12月 13日(水) 13時 30分～15時 30分

2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室および WEB

3. 主な意見等

- 道有林について、今年度予定している 98 物件全ての入札が終了し、84 物件、215 千㎡が落札された。10 月の製材工場動態速報において、製材の出荷量はエゾマツ・トドマツで今年度初めて対前年 100%を超えたが、カラマツは引き続き前年以下で減少している状況である。原木消費については引き続き低調で、原木の在庫は少し処理が進んだものの、引き続き多い状況である。全体的に製材需要は落ち込んでおり、需要の拡大を図るとともに、供給体制の強化を全道一丸となり進めていく必要がある。
- 現在は例年通り間伐事業を中心に、一部枝打ちを実施している。カラマツについては、合板材の受入れ制限が若干緩和されたが、製材工場は在庫過多で一部受入れ制限している。トドマツは今まで厳しい状況だったが、秋以降の材は問題なく受入れてもらえている。広葉樹については原材料を中心に需要は旺盛である。製品について、カラマツラミナは需要減により安価で推移していたが、出荷の打診が聞こえてきている。地区によって原木の需要動向や受入れ動向にばらつきがあることから、今後は地区事情に基づいて対応していく必要がある。
- トドマツの住宅用製材について、生産量の減少により原木在庫は多い状況が続いている。また、旧材処理が終わっておらず、歩留まりを落としているところが多いが、冬場生産の材は積極的に購入する姿勢がみられる。ホワイトウッドの在庫処理が進み、価格が安定してくると予想しており、トドマツの製品価格にとって良い状況である。広葉樹の一般材はナラ34上については、価格が下がらないため、一部ではコストを下げるためにニレやセンなど他の樹種で検討しているところもある。
- 素材生産についてはほぼ順調に進んでいる。素材生産量は増えてきているが、機械の更新や担い手不足、資材や燃料の高騰、川下でも住宅着工の落込みなど、様々な問題があり、非常に厳しい状況である。今後、条件のいい箇所や主伐が増えると、機械作業の割合が増えることで生産性が上がり、作業期間が短縮することで、その分立木販売を実施でき、さらに素材生産量を増やせ

るのではないかと考えている。安定的な木材需給のために、素材生産業者も発注側もまだまだ詰めていくことがあると考えている。

- 全体的に建築材を中心に需要が少なく減産状況が続いている。各工場の原木在庫は調整により徐々に過剰感は薄れてきている。本州向けの移出合板材は、トドマツカラマツともに昨年度から大幅に減少しているが、現在は減産しながらも順調に生産している状態で、今後も続くとみられる。輸入材については、世界的な市況悪化で欧州のメーカーがかなり減産を強いられ、造材も低調で、原料および在庫も少なく、ほぼ生産できない状況である。そのため、1、2月積みの入荷がある来春ごろから、輸入材が入らないことから、原料や製材が不足する可能性がある。
- チップ工場の在庫は1～2か月分と、依然として不足している。原料材が高騰し、大変な状況ではあるが、製紙工場については予定通り進んでいるところが多く、紙の生産量に特別な変化はない。製材の副材の生産が減少しているため、背板チップは若干増加している。チップ工場では在庫がなく、原料材が高騰していることから、今後も国有林材の供給を継続していただきたい。
- 中国木材の火災の影響から、栈木の動きが少し出てきている。当工場では本来主力の関東方面が低調なため、現在は需要が増加している中京から関西方面へ販売している。生産については、減産していたところから、例年通りの生産量に戻しているところで、今後は安定的な原木確保が課題である。輸入材中心のメーカーが一部国産材にシフトする動きや、非住宅分野でも木材への注目が高まっている。今後は国産材が需要の動向に合わせるのではなく、輸入材を補う、もしくは国産材への置き換えに向けての体制を整える必要がある。
- 産業用資材の全体的な出荷動向については、底は打ったものの横ばいが続き、回復が見通せない。インフレによる消費者の節約志向で、物流全体が落ちている。さらにパレットはプラスチックへ転換しており、現在は建築業界より産業用資材の落ち込みの方が大きいと感じている。非住宅の大型木造建築については、強度や供給量等からカラマツの採用が増えたことから、力をいれている。原木については、入荷調整により今年中には適正在庫になる予定である。冬場の痛みが少ない材については、一定量購入することから、国有林材の出材は、予定通り進めていただきたい。
- 当社のバイオマス発電所では、原料材が高値で出材量も少ないため、集荷が厳しい。一方、製材工場の荷動きの悪さにより、好ましい状況ではないが、背板で使用可能な虫害の低質材が一部発電所に入荷している。FIT 制度により、原料コストの上昇で収益が悪くなっている。パーティクルボードについては、住宅着工数の低下により販売量が落ちているが、解体物件が少ないため、原料調達が難しい。ペレット及び薪の需要が高まっているが、ペレット原料のおが粉の原木は原料材のため、入手が難しい。薪はナラの出材減少により、他の樹種が今後増えていくと予想している。